

つなぐ

2019 No.5

新春号

ご自由にお取りください



特集

歴史とデザインが織りなす異空間 木屋旅館

宇和島に春を呼ぶ 西江寺 えんま祭

インタビュー 注連飾り職人 上甲 清

つなぐ 2019 January 新春号

C o n t e n t s



写真：木屋旅館

- 01 エッセイ「これでいいのだ」 宇神 雪斎
- 02 インタビュー 注連縄作家 上甲 清
「神さまやけんペッペツしたらいいけんのですらい」
- 04 特集 木屋旅館 歴史とデザインが織りなす異空間
 - 05 「木屋旅館の歴史」 宇神幸男
 - 06 木屋旅館から新たなうねりを興したい グレブ バルトロメウス
 - 09 木屋セレクト&オリジナルグッズ
- 11 ミシュランプレート選定店 にし蔵
- 12 宇和島地方に春を呼ぶ えんま祭りの思い出
- 15 ツナグ昭和館 自然に満ちた田園風景が広がっていた
— 天赦公園一帯 — 田部 司
- 16 ふるさとの  **マルヤス食品 株式会社**
- 17 肺炎を予防しましょう。 沖内科クリニック 副院長 沖 良隆
- 18 筋肉づくりはスポーツ選手から高齢者まで！
広島修道大学 教授 藤井 文子
- 23 撮り歩きなんよ — 「丸山の梅林」「龍光院の河津桜」



表紙 / 「紅と白と僕」
作 / ありま三なこ

プロフィール

1987年生まれ、愛媛県宇和島市出身。
子供の頃から絵を描くことが好きで、大学の卒業制作でしかけ絵本を作り、それから絵本に興味を持つ。2016年第8回 be 絵本大賞受賞、絵本作家デビューを果たす。
現在は個展やイベントへの出品等で活動中。

※2013年 AAU イベントで制作された、現代美術家 東芋(たばいも) デザインの缶バッチ
3個セット 500円(税込)

つなぐ 新春号 No.5
〒798-0041
宇和島市本町追手 2-8-21
0895-23-7000
年4回発行(季刊誌)
配布先 / 宇和島信用金庫各支店ほか
発行 / 宇和島信用金庫
本誌掲載内容の無断転載を禁じます。

昔のことだが、講談社、実業之日本社、角川書店から小説を七冊刊行した。初版部数は少なくて五千部、多くて一万二千部。いずれも初版で絶版した。売れないのは面白くないし、担当編集者にも気の毒である。やがて、執筆の依頼も激減し、本業の市役所の仕事も忙しくなり、断筆した。

八年前、碩学近藤俊文先生が職場におみえになり、

「ぼくに書けというのですが、忙しくてとても書く時間がない。あなたが書きなさい。テキストに面白おかしく書けばよいのです」

二冊、本を残して去っていかれた。現代書館の「シリーズ藩物語」の既刊本である。二冊を読んで、こんなものなら自分にも書けると思った。

というわけで、二〇一一年、初めての歴史書『シリーズ藩物語 宇和島藩』を刊行した。初版三千部。二年後、「在庫がなくなりました。一千部、重版します」という電話があり、欣喜雀躍した。売れ

これでいいのだ

宇神 雪斎



ない作家にとって、重版ほど嬉しいものはない。

去年は、三月に『幕末の女医楠本イネ シーボルトの娘と家族の肖像』(現代書館)を上梓した。構想三年・執筆七年、苦心惨憺・七転八倒の労著である。

一方、三月末をもって南予文化会館の館長職を退き、隠居生活(年金生活)を始めた。隠居にあたって雪斎と号することにした。本稿は雪斎名義とする。

四月からは、朝から夜中まで新作を執筆するのが日課になった。気力・体力・脳力の衰えた老人にとって執筆は苦しい。苦しさをまぎらわせるため酒を飲み、煙草を喫う。確実に寿命が縮む。しかし、何であれ、創造行為は命とひきかえである。

新作の執筆と並行して、漫画『幕末の美少女高子 ―宇和島の日々―』の作・構成・監修にも心血を注いだ。宇和島では初めての歴史漫画で、佐藤伊吹さんの作画が実に素晴らしい。

ほかに、新聞の依頼原稿を三本書き、



宇神 幸男 うがみゆきお

作家・音楽評論家。小説は『水のゆくえ』(角川書店)『ヴァルハラ城の悪魔』(講談社)など。近年は『宇和島藩』『伊予吉田藩』『幕末の女医楠本イネ』(現代書館)などの歴史書がある。
本名 / 神應幸男

二、三の音楽評論も書いた。地元での講演・講座を四回。怠け者の私としては上出来である。『幕末の女医楠本イネ』は刊行半年後、九月下旬に重版が決まった。これも上出来である、

しかし、高校生の頃、芥川賞をめざしていた私は、ふと思うのである。

「こんなはずではなかった」

昨秋、岡田准一さん主演の映画「散り椿」(原作・葉室麟)を観て、こんなものなら自分でも書けると思った。思いはしたが、もう小説は書けないだろう。脳の中の小説を書く回路が錆びついてしまったからだ。

春には新作『大名家の女性たち ―西国伊達家の場合』(仮題)が刊行される。磯田道史さんの推薦文がいただけそうである。今から楽しみにしている。

そして、私は天才バカボンのパパのように、能天気な吹くのである。
「これでいいのだ」

神さまやけんペッペツしたらいいけんのですらい

しめなわ
注連縄作家 << KIYOSHI JOKO 上甲 清

お正月になると玄関などに飾られる注連縄（注連飾り）は、門松と同様に年神様を迎えるためのものだ。これは天照大神が二度と岩戸に隠れないよう縄を張ったという日本神話に由来していて、縄で境界をつくることで神聖な場所であることを表し、そこに不浄なものが入らないよう魔除けの役割もあると言われている。そんな私たちに馴染みのある「注連縄」をひとつの作品にまで昇華させているのが、西予市宇和町西山田の上甲清さん（82歳）だ。

かつて、西予市宇和町の冬の風物詩としていたる所で見た「わらぐろ」だが、ワラの需要が減ったことや機械化により近年その姿を消そうとしている。そんな昔ながらの風景を後世へ伝えようと上甲さんが中心となって、平成14（2002）年「宇和わらぐろの会」が発足した。

同会は同年大分県宇佐市で開催された「第4回全国わらこずみ大会」で優勝するなど、地元はもとより全国各地で開催される大会やイベントに積極的に参加し、知られる存在になっていった。そんな中、「イベントで何か飾るものがほしい」と考案されたのが、注連縄、ミニ米俵、ミニわらぐろ、鶴、亀などのワラを使ったアイテムだった。これらは、同会の活動にあわせて全国に知れ渡り、東京の業者などから注文がくるよう

※1)「わらぐろ」…収穫して干した乾燥ワラを、後日利用するために、田んぼで貯蔵しておくためのもの。全国でその形、呼び名が地域異なり、「わらぐろ」の呼び名は、四国全域と岡山・広島あたりまで。

になり、会の運営を支える貴重な資金源になっていった。同会は昨年活動を終えたが、その副産物ともいえるワラ細工は各方面から高い評価を受けている。

上甲さんが全くの独学でスタートしたワラ細工だが、中でも注連飾りの中央にあしらわれている「宝結び」は、神社や大相撲などでみられる特別な結びで完成形させるまでには相当の歳月を要している、まさに上甲さんの「宝」と言える結びだ。

本業だった稲作も数年前に世代交代を終え、現在はワラのためだけに稲を育てている。常に改良、改善には余念がなく、今年も昨年ひらめいたという「穂がでるまでのワラ」を使って注連縄を仕上げたが、従来のモノに比べ「ササクレ」がなく手間が半減したという。

また「ワラ」にもこだわっていて、アイテムやパーツに合わせて5種類の稲を選び、最適な田植え時期を選び、徹底した肥培管理※2）をしている。

「これは稲刈りした後に生えてきた俗に言う『ヒコバエ』ですが、これにも肥料をやるですが、多すぎたら稲が倒れてしまうので上手く調整しないと、こうはならないですらい」といって青々としたワラを見せてくれた。

※2)「肥培管理」…作物の育成を助けるための耕うん、整地、播種、灌漑、施肥、除草等の一連の作業を行って作物を栽培すること。

そして更に、きれいなワラにするために「手刈り」をし、「足踏み脱穀機」にかけるという徹底ぶりだ。こうして収穫されたワラは、夏の間にアイテムごとのパーツに仕分けられ、11月からの仕上げ制作に備える。

そしてこんな所にもこだわる――「昔、親父から家の注連縄づくりを任された時にな、手にペッペツとツバをつけてワラを縛おうとしよったらな、『神様にツバつけたらバチが当たるが』言うて親父にえらい怒られましてな、それから、器に水を入れて手を濡らすようにしよるですらい」と言いながら水の入った器を見せてくれた。

一日に10個ほどしか作れないという注連縄は納期に間に合わせるため早朝から夜遅くまで、まさに「朝は朝星、夜は夜星」の作業となる。

そんな上甲さんの悩みは「後継者」だ。田植えや下手間作業は松山からボランティアで来てくれる若者がいるが、技と力のいるワラを縛える人材は育っていない。

インタビュアの最後に今後について聞くと、一枚のチラシを見せてくれた。それには、昭和45年の大阪万博の日本民芸館に展示されたという諏訪音松作「鶴・注連縄」が大きくプリントされていた。注連縄の研究家で知られ関連書籍も多く執筆している森須磨子さんから、「同じものを作ってほしい」と頼まれたという。その複雑なつくりは素人目にもそうそう簡単に再現できるものでないことは容易にわかる。しかし、そのプリントを手に入れたのは、なかなかですらい」と話す目は嬉しそうに輝いていた。



穂が出るまでのワラを使った注連縄と鶴と亀。亀は大中小と大きさ違いで3種類あり重ねることもできる。



上甲さんの工房には完成を待つ多くの注連縄が所狭しとつるしてある



ボランティア後継者の若者たちとの談笑



器用に孫亀を作る上甲さん



親亀、子亀、孫亀

プロフィール／西予市出身 1936 (昭和 11) 年生まれ 高校時代は野球選手として活躍、卒業後は家業の農業を継ぐ。
2002 (平成 14) 年「宇和わらぐろの会」を発足 (昨年解散)。2008 (平成 20) 年頃から、わら細工のアイテム制作をはじめ現在に至る。
撮影 / 北濱一男

歴史とデザインが織りなす異空間

木屋旅館

百年の歳月をかけ熟成された、まるで古酒のような趣き
それから「引き算」をすることで生まれた新しい空間





木屋旅館の歴史

秋風や木屋とは古き饅頭屋

幕末の宇和島藩家老松根図書まつねとくしょの孫である俳人松根東洋城まつねとうようじょうの一句である。この句にもあるように、木屋は明治6（1873）年、木屋徳右衛門とくえもんという商人が追手通りに開店した饅頭屋であった。

木屋の「喜作餅」（いが餅であったようだ）は大いに売れ、やがて酒や食料品を売る店に発展した。当時、追手通りに商店街が形成されつつあった、明治44（1911）年、転業して堀端通りに商人宿を開業したのが旅館木屋の始まりである。

追手通りの上手に「融通座」という芝居小屋があったので、歌舞伎役者や芸人が多数宿泊した。「我等のテナー」とよばれた世界的オペラ歌手藤原義江ふじはらよしえ、「佐渡情話」で一世を風靡した浪曲師米若よねわか、名優十二世片岡仁左衛門かたわね ぜいさもんらの名を揮毫帳に見ることができ、融通座は戦後、洋画のスパル座、ボーリング場、バッティングセンター、シネマサンシャインなどを経て、現在はマンションになっている。もし融通座が残っていれば、西日本最大級の芝居小屋として、これだけで観光客をよぶこともできたであろう。なんとも惜しいことである。

木屋旅館の宿泊客はまことに多士済々である。政治家では後藤新平ごとうしんぺい、犬養毅いぬかいぎ、浅沼稲次郎あさぬま いねじろう、学者では霊長類研究家の今西錦司きんじ こんし、

国語学者の金田一春彦きんだいちゅんひこ。作家では獅子文六ししぶんろく、司馬遼太郎しばりょうたろう、城山三郎あきやま さんじろう、吉村昭よしみむらあきら、五木寛之いつきひろゆきらがいる。そのほか望月優子もちつき ゆうこ、藤原釜足ふせあき、林美智子はやし みちこ、小松方正こまつ まさただ、石橋蓮司いしはし れんじといった俳優が色紙を残しており、落語家の桂米朝けいまいちよう、桂枝雀けいしやくも泊まっている。

取材調査で全国各地を訪ねた吉村昭さんは、旅館よりホテルを好んだ。夕食は地元料理屋で地元ものを食べるのが吉村流だったからだ。宇和島でホテルに泊まったときは、「やまこうどん」を朝食にした。

宇和島を六〇回訪れた吉村さんは、木屋旅館に二泊したことがある。朝食を木屋旅館で取った。このときのことを随筆「ホテルと旅館」に書いている。

「料理がうまく、味噌汁、漬物もいい。心がかもつていて、豊かな気分になった。翌日の朝食は前日とちがった料理で、味噌汁の具、漬物もかえてある。宿屋の人の好意が感じられ、これはホテルなどでは決して味わえぬものだ、と思った。私は、参ったなあ、という思いで、出立の朝、宿屋の人たちを頭をさげて駅へのタクシーに乗った」

五木寛之さんは一泊しただけだが、「日刊ゲンダイ」の連載エッセイ「流されゆく日々」に木屋旅館のことを記し、「特に風呂がよかった」と書いている。木屋旅館主人平川幸三さんが、タイル貼りの古めかしい風呂を檜風呂に改造したばかりだった。



木屋旅館前の大柳が印象的な写真だ（撮影年不明）

木屋旅館は平成7年10月、惜しまれつつ廃業した。筆者の若い頃、平川幸三さんは観光協会の関係で話をする機会があり、晩年には木屋の歴史の聴き取りのために何度かお話を伺った。

「司馬さんと吉村さんは快く色紙を書いてくださった。城山さんは字が下手だからといって書いてもらえなかった」などと興味深

い話を聴かせていただいた。

木屋旅館は中心市街地に残る趣のある建物というだけでなく、歴史の証言者であることに価値がある。

平成23年、旧木屋旅館は宇和島市によってリニューアルされ、再び開業して現在に至っている。



うがみ ゆきお
宇神 幸男

作家・音楽評論家。

「ほったらかし」とデザインの融合

木屋旅館から新たなうねりを興したい



グレブ バルトロメウス

木屋旅館
マネージャー

木屋旅館(以下:木屋)は一棟貸しで、食事の提供もしない「ほったらかしの宿」だ。2014年に国の登録有形文化財に指定され宿泊客も年々増えている。また、一昨年には日本政府観光局から「外国人観光案内所」の認定を受けたことや、マネージャーのグレブ・バルトロメウスさん(以下:バルさん)の豊かな語学力の効果もあって年間宿泊客の10〜15%が外国人観光客だ。

現在の木屋は、廃業していたものを宇和島市が買い取り、リニューアルした後、トランジット・ジェネラル・オフィスの中村貞裕氏を中心としたプロジェクトチームが立ち上がり、「木屋再生プロジェクト」が動き始めた。プロジェクトメンバーには「OSVUTION 京都大丸店」、「丘のある家」などの設計をした永山祐子や俳優の伊勢谷友介、宇和島出身の茶人木村宗慎などが顔を連ねる。

ポーランドで生まれたバルさんは、9歳の時に旧西ドイツのフライブルグに移住した。元々日本に興味があり日本についての映画をよく観ていたが、当時は日本とアジアの他の国々との違いがよく理解できてなかったと笑う。

11歳から空手を始め、日本への興味はさらに強まり、日本映画を鑑賞したり、図書館へいっては「葉隠」や「武士道」などの



一部床がアクリル仕様の2階客室



文豪気分を味わえるライブラリ



1970年代の木屋旅館前の様子（写真提供：田部 司）



木屋旅館外観



本を読みあさり、その哲学に触れた。その後、フライブルク大学に進み、いずれどこかの国へ留学したいと考えていたところへ、フライブルク市と姉妹都市の松山市が奨学金を出し、留学生を募集していることを知り受験、見事合格したバルさんは、1年間、愛媛大学で学んだ。

ドイツに戻り大学を卒業した後、仕事にも就いたが、奥さまの千佳江さん（愛媛県出身）との出会いもあり、「日本の文化をもっと深く知りたい」と再び松山に移住した。松山では英語やドイツ語の教師をしながら日本文化の勉強をしていたが、そんなある日、知人から「日本の昔の文化に興味のある、あなたにピッタリの仕事がある」とすすめられたのが現在の仕事だった。

採用が決まってからリニューアルオープンまで数ヶ月しかなかったため、引越しまーケティング、ホテルの営業について学ぶため忙しい日々を過ごした。

2012年4月7日には、女将と総支配人に千佳江さん、そしてバルさんが営業や広報を担当する体勢で営業を開始した。しかし、その数ヶ月後に女将の女性が辞めてしまうという予想外の展開になり、以降夫婦で木屋を盛り立てて行くことになる。

木屋の現状は冒頭で触れたが、今後の展望などをバルさんに聞くと――

「さらに宿泊客を増やすことはもちろんですが、木屋のオリジナル商品を開発したいと思っています。例えば、木屋は元々まんじゅう屋さんだったので、地元のお店とコラボしてオリジナルスイーツとかが出来れば、ステキです」と意気込む。また、木屋の役割は広告塔となって宇和島をPRすること



1 階浴室廊下から見る中庭



1 階から 2 階の天井の梁を見ることができる。



2 階客室に設けられているスクリーンと LED ライトで自由に演出を楽しむ。



なので、まずは、今まで宇和島を知らなかったり、四国に來たことがなかった人に「木屋旅館に泊まる」という目的を提供することが重要だ。それには、目先の儲け話ではなく、腰を据えた観光資源を発掘し整備しなければ意味がない。そして、その原石のようなモノが宇和島にはたくさんあるという。

リニューアル当初から思い描いていた、行政、観光協会、経済界が力を合わせ宇和島も木屋も元氣が出るという状況がようやく整いつつあるという。そしてもうひとつは、いずれ適当な人が現れば、地元の出身の人に木屋の運営を譲りたい考えた。

そして今日も、利用者から「とてもよかった」「また泊まりたい」という言葉を聞くために黙々と仕事をこなしている。



■パールピンブローチ（男女兼用）

各 5,400 円（税込）

シルクの組み紐とバロックパールの組み合わせ自由なピンブローチ



■エッセンシャルオイル

1,620 円（税込）～

果汁を搾った後の柑橘果皮から水蒸気蒸留法で抽出したエッセンシャルオイル。
アロマハウスリーフと木屋旅館のコラボレーションで生まれたオリジナル商品「木屋旅館エッセンシャルオイル」
価格未定（写真：右）

■蔦淵の藻塩

50g 入り 756 円（税込）

昔ながらの手法で宇和島市こもぶち産の原料だけで作られた海藻のミネラルをとことん凝縮した藻塩



■大竹伸朗 ぬりどきトートバッグ（3 種類）

各 4,320 円（税込）

宇和島在住の世界的現代アート作家
大竹伸朗デザインの新入荷トートバッグ



■麦味噌飴

250 円（税込）

麦味噌屋三代目と飴屋三代目の
コラボレーションで生まれた飴
米袋のようなパッケージで木屋
の人気商品のひとつ



■Kuroda Brothers ポーチ 「FUTAE」

2,500 円（税込）～

黒田旗のぼり店の手染めの布を
リメイクしたシリーズの中のポーチ



個性あふれるおしゃれな品々

木屋セレクト&オリジナルグッズ



宿 泊

木屋旅館 1 棟を最小 2 名様～最大 10 名様まで
1 組限定の貸しきりです

■ 1 泊：施設利用料 21,600 円 +
お 1 人様につき 5,400 円（消費税込）
夕食別、軽朝食（洋）込み

定員数

2 名様～最大 10 名様まで
11 名様以上で宿泊希望の際はご確認ください

チェックイン & アウト

チェックイン : 15:00
チェックアウト : 11:00

基本設備

冷暖房設備（* 各部屋内）
液晶テレビ / ダイニングテーブル / セーフティーボックス（* 全てリビングルーム内）Bluetooth 搭載
機器対応オーディオ / 無線高速インターネット接続 ライブラリー / 浴場 / 駐車場あり 2 台

貸し広間

1 階大広間（20 畳）は時間貸しが可能です
■ 料 金：1,000 円 / 1 時間（消費税別） ご利用時間：11:00 ～ 14:00

ギャラリー

展示会場としてご利用が可能です
■ 料 金：無 料 ご利用時間：11:00 ～ 14:00

館内見学

館内の見学ができます
■ 料 金：200 円 / 1 人（消費税込） ご利用時間：11:00 ～ 14:00

■ いずれも宿泊状況等により、お受けできない場合もございますので事前にご確認ください

外国人観光案内所

2017 年、日本政府観光局（JNTO）から南予初となる
「外国人観光案内所」の認定を受け、宇和島はもちろん
南予や高知県などの外国人向けのパンフレットが整備
され、日本語はもちろん英語など多言語をあやつる木
屋旅館マネージャーのグレブ・バルトロメウスさんが
親切に対応してくれる。



木屋旅館

愛媛県宇和島市本町追手 2 丁目 8-2 TEL.0895-22-0101 (10:00～18:00) ✉ contact@kiyaryokan.com

木屋旅館



<http://www.kiyaryokan.com/>

ミシュランガイド 2018
広島版・愛媛版
ミシュランプレート選定店

本格讃岐うどん にし蔵



特上えび天ぶっかけ 980 円

MICHELIN



座敷 18 席



店内の様子



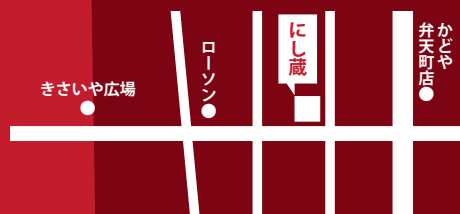
店舗外観

宇和島市弁天町 1-2-19

TEL.0895-23-2070

営業時間／ 11:00 ～ 15:00 17:30 ～ 20:00

定休日／月曜日（祝日の場合は翌日）



平成25年1月にオープンし6年目を迎えました。当店では厳選した小麦粉を自家製麺し、北海道産昆布などの具材や醤油にもこだわった出汁でお召し上がりいただいております。また、当店イチオシの揚げたて大えび天と茹でたてのもっちり麺との取り合わせを是非一度ご賞味下さい。メニューも温かいお出汁のうどんから冷たい、ぶっかけやざるうどんなど様々な種類のうどんに加え、サイドメニューにおでんやおにぎり、いなりがございます。

店内は椅子席とお座敷がございますので、小さなお子様連れのお客様でもゆっくりとお食事頂ける空間となっております。皆様のご来店を心よりお待ちしております。

※ミシュランプレート選定店とは … 調査員オススメ店

宇和島地方に春を呼ぶ えんま祭りの思い出



撮影：北濱一男



ほんだ こういち
本田 耕一

南愛媛医療アカデミー校長
元市立伊達博物館々長
1945年生まれ 宇和島市在住

佛日山西江寺の名前を「せいこうじ」と読める人は少ないだろう。このお寺は由緒正しいお寺で、創建は一三六五年（貞治四年）、宇和島城の鬼門封じの寺でもあった。初代藩主伊達秀宗が入部して、まず行ったのが寺社の整備だった。城の鬼門に当たる寺として、臨海山龍光院を建立したのは一六一五年（元和元年）のことである。そして龍光院の山下にあった西江寺は一六二五年（寛永二年）現在の場所へ移転され、臨済宗妙心寺派の格式の高い寺として存続することになる。

名前や格式について述べたが、それより西江寺は、私たちにとって親しみ深い寺でもある。通称「えんま様」。お祭りの日には孤高の画家、村上天心の閻魔・阿修羅・地藏菩薩の大画像が本堂の壁一面に掛けられる。その周りには地獄・極楽の掛け軸がぐるっと一周する様は壮観である。祖母や母親から「嘘をついたら舌を抜かれる」とか、死んだ時には大王の前で裁判があり、現世の嘘や罪によって、「灼熱地獄」とか「血の池地獄」に追いやられ、鬼達にいじめられると聞かされた。仏教における生きる者たちへの警鐘（道徳教育）であろう。善を積んだ人は極楽浄土へ行くことが出来る道もあり、その掛け軸もある。釈迦入滅の軸、その中には、悲しみの人々の中で笑っている「天邪

※1) 宇和島出身の画家



西江寺の庭園は蓮葉池泉様式と禅院枯山水様式を重ね持つ枯山水庭園で県の名勝に指定されている



ひょうたん菓子や松茸飴が売られる寺前に並ぶ出店



本堂の天井には黒田健一作の大きな龍の絵が私たちを出迎えてくれる



大迫力の閻魔大王図と対照的におだやかな地藏菩薩図が並ぶ



今年のえんま祭は2月20日から22日の3日間開催されます。

鬼」の姿も描かれている。えんま様のお祭りの日、子ども達の母親代わりといったは失礼だが、名解説者が登場する。名前は大宮裕子氏、名調子で長年子ども達に説明されていて、お参りする方の中には彼女のファンも多いと聞いている。

えんま様は怖い存在だったが、出店が多くて楽しみもあった。境内から木藤時計のところまで隙間なく並んでいた。祭りの名物菓子は「松茸飴」と「ひょうたん菓子」である。当時いくらだったか忘れたが、小遣いをもらって買って帰るのがうれしかった記憶がある。飴は細工物で松茸の姿そのもの。ひょうたん菓子は「唐饅」の変形といってもいい。西江寺には今でもお茶会などで招かれ訪れる。庭園は県の指定文化財、蓮葉池泉様式と禅院枯山水様式を重ね持つ枯山水庭園である。その庭を眺めながらお茶を頂く。至福の時、そのたび懐かしい思い出と恐ろしかった思い出が交差する。

● 高子プロジェクト宇和島が刊行

宇和島初の歴史漫画「幕末の美少女高子—宇和島の日々—」



宇神幸男さんが作・構成・監修にあたり、宇和島在住の佐藤伊吹さんが作画した漫画です（限定非売品）。
この度、先着順で読者プレゼントとさせていただきます。ご希望の方は、**本誌の感想文（様式は問いません）**に年齢、性別をご記入の上、**宇和島信用金庫本店営業部窓口**にお出し下さい。引き換えにお渡しいたします。

読者
プレゼント
先着 20名様

【引換え場所】宇和島信用金庫 本店営業部
宇和島市本町追手 2-8-21

【お問合せ】業務推進部 0895-23-7000

● 兵頭一夫展 - 痕跡は虚実のはざまに -

会 期：2月1日(金)～5月6日(月)

AM9:00～PM5:00（入館はPM4:30迄）

休館日：火曜日（祝休日の場合はその直後の平日）*4/30（火）は開館

自然という対象に即した自分の抽象。時を感じ、光をとらえる。観る者にはどこか「虚」の部分にひかれ、虚実のはざまに作家の痕跡がみてとれる。

今展では、新作及び2000年前後以降の近作を含め、約40点の油彩画を中心とした作品を展示致します。是非、ご来館下さい。



お問合せ / 畦地梅太郎記念美術館・井関邦三郎記念館
宇和島市三間町務田 180-1「道の駅みま」内
Tel / Fax. 0895-58-1133

畦地梅太郎記念美術館



<https://www.city.uwajima.ehime.jp/site/azechi-iseki-museum/>

おかえりコンサート2

2019年
1/20 (日)

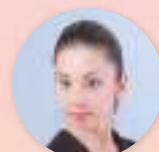
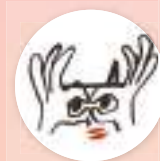
14:00開演 | ロビー開場 13:15
ホール開場 13:30

主催 / 音楽の力で うわじま発信「おかえり」実行委員会

1F 指定 大人S席 / 前売3,500円 (当日4,000円) 子供S席 / 前売1,500円 (当日2,000円)

2F 自由 大人A席 / 前売3,000円 (当日3,500円) 子供A席 / 前売1,000円 (当日1,500円)

※子供料金は高校生以下



ダンサー
竹内真紀

イラストレーター
ありま三なこ



中川奈美



扇谷研人



花れん



大石昌良
オーイシマサヨシ



遠藤百合



空 大樹

◆お問合せ 音楽の力で うわじま発信「おかえり」実行委員会
・okaeri.information@gmail.com
・070-5570-4848（ブルームレコーズ）

◆おかえりプロジェクト公式ホームページ
<http://okaeri-project.wixsite.com/okaeri>

QRコードで今すぐチェック! ▶





天赦公園付近 【昭和 30 (1955) 年頃】

現在の宇和島市立伊達博物館※前の天赦公園一帯は、戦前から戦後しばらく昭和30（1955）年頃までは低湿地帯で、田圃がある自然に満ちた田園風景が広がっていた。写真中央に妙典寺前から移転もない城南中学校の新校舎、左側に国指定名勝・天赦園※の森が前方の田や荒地の向うに写っている。右側奥に白くかすんでいるのは戒山であらう。

※伊達博物館 … 市政 50 周年を記念して旧伊達藩邸跡に昭和 47 (1972) 年開館。

※天赦園 … 宇和島七代藩主伊達宗紀（だて むねただ）が幕末の慶応 2 (1866) 年、余生を楽しみたいと鬼ヶ城（おにがじょう）を借景にした「地上の楽園」をイメージして築庭。クス、ウバメガシの古木に囲まれ伊達家の家紋・竹に雀にちなみ、さまざまな竹が植栽されている。

私が城南中学校左隣の明倫小学校に入学した頃、天赦園入口隣のわが家から、この稲木の脇のあぜ道を通って明倫校に通うのが一番の近道だった。私の 4 年先輩に当たる人は、春に農耕用の牛が田の代掻きをして、いたことや、夏に蓮の花が咲き誇っていた光景を鮮明に覚えているという。

なお、「天赦園」と宇和島東高等学校に挟まれた天赦公園の開園は、昭和 42 (1967) 年ということになっているが、野球場（天赦園グラウンド）やテニスコートが完成したのは昭和 32 (1957) 年と記録されているので、この写真の 1、2 年後には公園化が早急に進められたことになる。

もともとここは伊達家の御浜御殿があった所で、公園北側には「お清水（しみず）」とよばれる名水が湧いていた。祖父から「お殿様がお茶に使われる」と聞かされていた「お清水」は、たしかグラウンドの右翼あたりにこんこんと自噴していた。

写真左側の水田の手前には、子どもの頃には宇和島伊達家の偕楽園という庭園があり、佐伯町の自治会長などしていた祖父の関係で、子どもだった私は偕楽園や天赦園へはいつも顔パスで入れた。大きな亀や錦鯉の泳ぐ池泉回遊式の庭園があり、天赦園よりはこじんまりしていたが、こちらの方が趣きがありお気に入りだった。

児童遊園地を含む天赦公園づくりは、宇和島市の戦災復興事業の一環として昭和 25 (1950) 年から着手されていて、同公園の整地とともに田圃の北を走る道路も失業対策事業で整備された。二車線の道路がコンクリート舗装されたのは、私が城南中学校へ入学した昭和 38 (1963) 年だった。

写真の城南中学校の後方には、来村川河口沿いに広大な小笠原新田※が続いていたが、この頃から宅地造成の埋立て工事が始まり、当時中学生だった我々は、よくこの辺りを「うめたてで遊ぶ」と口にした。こうして、今の明倫町、榊形町の新興住宅地が出現していき、子どもにとって身近な「自然の楽園」は消えてしまった。

※小笠原新田 … 蓮根畑が一面に広がり、釣りのメッカ「長池」には水門があった。ウナギ、ドジョウ、コイ、フナ、ボラから、おけらからギンヤンマまで何でも捕れた。「トンボを餌にした食用ガエル（ウシガエル）釣りが最高に面白かった」と宇都宮 裕さん（中央町 70 歳）から聞いた。



【現在の様子】伊達博物館前から撮影した天赦公園。右の茂みは宇和島東高。



写真・文 / 田部 司

た日々——あの時代に宇和島再生のヒントがあるような気がしてならない。

前号（秋号）の訂正とお詫び

思い起こせば、戦後団塊の世代に属する我々にとって、この頃が大きな時代の変わり目をリアルタイムで実感した時だったかもしれない。天赦公園以外にも、城山や和霊神社前など各所に公園が整備され人工的な都市化が進んでいった代わりに、小笠原新田などさまざまな豊かな自然が失われ、「貧しくとも自然に囲まれて元氣だった」30 年代は終わりを遂げた。

以来半世紀を経た現在、宇和島の町のトータルな景観を考えると、樹木や水などの自然の部分が随分減少した感じがする。今後の宇和島のめざす方向は、自然と町並みのバランスが取れていることではないか。

ある程度自然を活かした形での天赦園と偕楽園がダブルで存在していたのなら、観光地として十分全国へアピールできたと思うと残念きまりない。宇和島城にしても、樹木を含めたより自然に近い保存整備を考慮すべきだろう。

ここ数年「伊達 400 年祭」「南予いやし博」などのイベントが繰り返され、それらの催し物の最大の目的は宇和島の活性化だったはずだが、はたしてその初期の目的は達成できただろうか。決して町全体がその催しに一丸となっていたとは思えない。

我々が少年期を過ごした昭和 30 年代——まだ貧しかったが、それゆえにみんな力を合わせ町の向上に努めた日々——あの時代に宇和島再生のヒントがあるような気がしてならない。

「白い洋館の目立ったお屋敷町一賀古町界限」で紹介した掲載写真（ネガ）が、裏表反対になっていることが読者の指摘により判明しました。ここに訂正するとともに深謝いたします。



写真右は人気商品「甘夏入リトコゼリー（ミントは撮影用）」。左奥から「苺の杏仁豆腐」…食物繊維入りでお腹に優しく苺の味が濃厚です。「あま酒ジュレ」…日本伝統の甘酒にオリゴ糖を加えています。「珈琲ゼリー」…コーヒーと相性のよい美味しい宮古島産の黒砂糖を使ったコクのある珈琲ゼリーです。

トコゼリーの製造工程



天草の天日干し作業



釜で煮られる天草



煮汁をこす



ところてんブロック



ゼリー用ところてん



ミキサーにかけられる果実



専務取締役
安岡 幹雄さん

「トコゼリー」を作り始めて37年、こんにやくの製造で創業し、ところてんに果物を入れたおやつを作ったのが始まりです。

「トコゼリー」は、複数の果肉をミキサーで潰してジュースを作り、ところてんや寒天、コンニャク粉で固めているので果物由来の旨味や色が着いています。香料も使わないので、より自然な味を感じられます。また当社は、「できるだけ人工的な添加物を使わず美味しい食べ物を作りたい」という考えのもと、カロリーゼロにもできる人工甘味料は使わず、普通にカロリーのあるさとう大根の砂糖を使っています。

ゼリーに香料を使わず美味しくしようとすると沢山の果物が必要で、スープや惣菜を化学調味料なしで美味しくしようとすると沢山のダシ材料が必要となりますが、当社は「より美味しく、より自然に」をコンセプトにした製品を、お求めやすい価格で提供できるよう精進しています。

肺炎を予防しましょう

かつて日本人の死亡原因の多くは、肺炎、結核、胃腸炎などの感染症でした。戦後、抗生剤の開発や結核対策、栄養改善などでこれらの感染症は激減しましたが、肺炎は今でも日本人の死亡原因の3位です。肺炎は細菌やウイルスなどの病気を起こす病原微生物が肺に入り感染し、肺が炎症を起こしている状態です。

肺炎の症状としては、激しい咳、黄色や緑色を帯びた痰を伴う湿った咳（起炎菌によって異なる場合があります）、38度以上の高熱、呼吸困難、胸の痛みなどがあります。しかし、高齢者の場合には熱が出ないこともあり注意が必要です。食欲がない、元気がない、ぼーっとしている、等のなんとなくいつもと違うこのことで来院され、肺炎が見つかることもあります。

また、高齢者では嚥下機能の低下による誤嚥性肺炎も多く見られます。脳梗塞、認知症、パーキンソン病な

どの持病がある場合、特に注意が必要です。

肺炎の治療には抗菌薬の投与が必要となります。安静と十分な栄養や水分の補給も必要です。他の疾患や免疫機能低下がある場合や高齢者などでは重症化する可能性があるため、原則として入院による治療が行われます。

肺炎は予防が重要です。外出後は手洗い、うがいを行いましょう。免疫力を落とさないように、十分な栄養摂取と睡眠も必要です。高齢者では誤嚥による肺炎も多いため、顎を引いてよく嚥んで少しずつ食べる習慣をつけてください。食後はすぐに横にならないように。普段の食事でもせる方は料理にとろみをつけるで誤嚥しにくくなります。

口腔内は雑菌が多いため、口の中を清潔に保つことも肺炎の予防になります。食後の歯磨きなどの口腔ケアを行い、歯周病のある方は放置せず治療を行いましょう。

冬はインフルエンザ流行のシーズンです。インフルエンザ感染後に発症する肺炎（二次感染）はしばしば重症化します。インフルエンザ予防接種を行うことにより、肺炎を予防することが出来ます。インフルエンザウイルスは変異するため、毎年流行前に予防接種を行う必要があります。

肺炎の起炎菌として最も多いのが、肺炎球菌です。65歳以上の方は感染の可能性が高くなりますが、肺炎球菌ワクチンの接種によって肺炎は発症しにくくなり、発症しても重症化が抑えられ、死亡率が下がることが認められています。このワクチンの効果は5年程度です。

また、肺炎は感染によるもの以外にもアレルギーやリウマチ性疾患、薬物によるもの、

あるいは原因不明の肺炎もあります。咳や発熱が長く続く場合には風邪だと思いつまみず、医療機関を受診して下さい。



沖内科クリニック
副院長 沖 良隆

筋肉づくりはスポーツ選手から高齢者まで！



広島修道大学
健康科学部 健康栄養学科
教授 藤井 文子
宇和島市出身
きものを楽しむ会々長

私はスポーツが好きで、20代から登山、スキー、カヌーのアウトドアスポーツを楽しんできました。スキーはグレンデという一定の領域のなかでリフトの力を借りて楽しみますが、登山とカヌーは自然の中に飛び込むスポーツですから楽しいだけではなく、厳しさも伴います。

カヌーをしている人口は少ないと思うのでちよつと説明しますと、私が楽しんでいたのは川を下る1人乗りカヤックです。ちよつと流れの激しいところではひっくりかやるので「カヤック」といいます。(うそです！) ひっくりかやつたときに起き上がる技術を「エスキモーロール」といいます。これができないと川に放り出され(沈脱といいます)、激流では洗濯機の中の洗濯物状態になりますのでとても体力を消耗します。エスキモーロールの練習をするためにプールに通つて水の中で逆立ちする練習をしたこともあります。また、川くだりは水面をスイスイと移動できて快適なのですが、腰周りや上腕の筋肉を使います。エンジンが付いていないのですから流れがあるとはいえず、漕ぐ力が必要です。そして、目的地に到着してからが大変です。6、7kgもあるカヤックを右肩に担ぎ、左手にパドルを持って、川から車が置いてある道路まで不安定な護岸を歩いて移動します。若いお姉ちゃんのうち男性も手伝ってくれますが、おば

ちゃんになると置いていかれます。そこでめてはいけません。足手まといにならないように体力をつけておくのです。「このおばちゃん、なかなかやるね!」と思われたら、次の川にも誘ってもらえますから「エンジン・川くだりパスポート」を手に入れることができます。おかげさまで、四万十川、黒尊川、肱川、仁淀川、吉野川、穴吹川、錦川、熊野川などたくさん美しい流れの川を堪能することができました。そして、こんな目的があれば日々の運動も楽しくなるのです。

カヤックを担ぐには上腕二頭筋、不安定な護岸を歩くには大腿四頭筋の強化が必要です。筋肉を作るには材料となるタンパク質食品が必要になります。運動は筋力トレーニングと持久力トレーニングです。そして、運動後1時間以内にタンパク質食品を摂取すると筋力づくりに効果的なのです。牛乳、チーズ、ヨーグルトなど手軽に食べられる食品を用意しておきましょう。魚肉ソーセージなども携帯に便利ですね。

タンパク質は20種類のアミノ酸からできています。その中でも分岐鎖アミノ酸(BCAA)といわれるバリン、ロイシン、イソロイシン、特にロイシンが筋肉づくりに有効なタンパク質であるといわれています。ロイシンの多い動物性タンパク質食品(肉や魚など)を積極的に摂取するといいいでしょう。スポーツドリ

ンクもロイシン含有量が多いものも販売されています。ドラッグストアで「ロイシンが多い、飲料はあるかな?」って聞いたら、「おお! 筋トレに励んでいる人だな」と一目置かれますよ。

そして、筋肉づくりはスポーツをする人のみならず高齢者にとっても必要なのです。年齢と共に筋肉が減少します。「つまづく」「こける」これらは筋肉量が減少し、筋力が低下している証拠です。「サルコペニア」「フレイル」ということが使われていますね。サルコペニアは筋肉量、筋力が減少してくることです。そして、段々と活動量が低下し、フレイル(虚弱)が進行して、日常生活が困難になってきます。それが寝たきりにつながります。それを防止するには運動をし、その消費したエネルギーを確保しながらタンパク質食品を多めに摂取することです。具体的には、三食の食事をきっちり食べ、運動後1時間以内にはタンパク質食品を摂取するのです。運動は年齢に合わせて、散歩や室内でできる筋トレなども代謝が活発になり効果的です。

先日、70代の男性から次のような質問をされました。「野菜を食べないけんいうけん、野菜食べよつたら、テレビで年寄は肉を食べないけんいいよ。どっちが正しいの? いろんなこといわれると解らんのよ」。回答は「どっちも食べないけんよ!」

最後に、アウトドアスポーツは体を鍛えるだけではなく、精神力も鍛えてくれます。思わぬことが起こった場面での対応力が育ちます。そして、同じ川を下つた仲間とは達成感や連帯感で結ばれ、コミュニケーションが深まります。私の仕事にも大いに役立っています。カヌーはリオ五輪で羽根田選手が銅メダルを獲得したことで注目されるようになりました。あれはスラローム競技ですが、きれいな川が近くに沢山ある四国ではおすすめのスポーツです。



北山川にて (バックは観光いかだ下り)

お気楽 俳句

あけましておめでとうございます。平成最後の年の幕開けです。年頭にあたり猪突猛進できる趣味をお探しの方にお知らせです、俳句を作ってみませんか？「俳句は難しいからいやだ」そう思ったあなたの考えを覆すべく句会仲間の句を紹介いたします。まずは、ご一読あれ、そのあとで「楽しいかも」と思われたらしめたもの、これで今年の目標は決まりました。そう「句会に参加」です。さあ一緒に俳句であそぼ。

白魚を食う食う水になりたくて

藤田 瞬

◆あの透明な魚を食べ続けたいつか水になれるかも。

春寒し湯気まで甘きココア飲む

畠山八重子

◆ココアって湯気まで甘そう。なんだかしあわせだね。

背伸びして逆立ちもして雪眺む

佐々木正弘

◆雪が降るとわくわくする。南国ならではの感覚かな。

鷹降りてくる日曜の交差点

増田延恵子

◆鷹っていつもいるけれど冬の季語なの。不思議だね。

ぐるぐると肩を回して三日かな

赤川 慎一

◆この感じわかるな。季語が動かないのは佳句の条件。

春待つ日古新聞を束ます

犬飼みやえ

◆ふと出た言葉がほら俳句になる。こんな句が大好き。

小さき手小さき蜜柑剥ぎにけり

佐々木順子

◆孫の文字を使わずにお孫さんへの想いをみごと表現。

旧正の玄関先の風のいろ

水谷 均

◆正月ではなく旧正。その微妙な違いを見事に表した。

白鳥の親子まあるく眠りをり

百合田嘉子

◆まあるくなつて親子でみる夢はきつとあたたかいね。

空はみずいろ雪だるま猫だるま

吉川 優子

◆猫だるまいいね。次に雪が積もったら一緒に作ろう。

最後にとつておきの句を紹介いたしました。なんと回文俳句なるものに挑戦している強者がいるのです。ひらがな表記を反対に読んで確かめた後はさらに楽しくなること間違いなしです。

人参を夜には煮るよ恩人に

柿本 博文

◆にんじんをよるにはなるよおんにんに

木天蓼の箱根の猫は伸びたタマ

◆またたびのはこねのねこはのびたたま

お読みいただきありがとうございます。俳句に親しむきっかけとなれば幸いです。(文：脇谷 梨花)



絵：律川エレキ

1966年宇和島市生まれ
2000年頃より俳句新聞
や俳句マガジン等に挿
絵を描く。

映像作家 奈良市在住

おすすめの本

いつかの涙を光にかえて — 統合失調症の兄とトイピアノ —

文：畑 奉枝 絵：半田 正子 出版：星雲社 ¥2,268 (税込)

トイピアノを知っていますか？ そうです!! おもちゃのピアノです。
畑さんに出会って、世界中にさまざまな音色(ねいろ)や形のピアノがいることを知りました。そんなトイピアノが、今にも壊れてしまいそうな家族に小さな奇跡を起こします。これは、統合失調症のお兄さんをめぐる家族の葛藤と再生を綴った畑さんの自伝的おはなし絵本です。
やさしい絵と気持ちが溢れ出る詩は感動的です。

協力：岩崎書店 宇和島市錦町 4-16 TEL. 0895-22-0528



つなぐ美術館



作品名：パンジー（油彩）
作 者：藤田安幸（大人クラス）



作品名：青いりんご（油彩）
作 者：岡原節子（大人クラス）



作品名：
みんなの地球儀
作 者：
清家ちひろ
(子供クラス 小6)

19世紀後半、モネらによって印象派が生まれ、セザンヌ、ピカソと続く近代絵画の隆盛をみる。チューブ入りの絵具ができた自由さもあり、筆のタッチがキャンパスの上で躍動し始める。このお二人の絵、その申し子のように！リズムに乗った一筆一筆の重なる痕跡。色と色が響き合い、動き、形を生んでゆく。かつての衝撃は、時代を経てごく自然な有りようとなり、今に繋がっている。

地球儀の上に亀が乗っている。おもしろい！周りに息衝く花、茸、魚。子供の直感？偶然？それとも意図して？この亀は現代に対するメタファー（暗喩）にもなっている。ゆっくり歩めと。

■アトリエ堀端絵画教室（べにばら画廊） 宇和島市本町追手 2-8-6 TEL.0895-22-1104 <https://benibara.webhop.info/> コメント：吉田淳治



作品名：空飛ぶ熱帯魚（アクリル絵具）
作 者：和田寛治

熱帯魚が空を飛んで、自宅付近を見下ろしている作品。柔軟な思考力があり、いつも新たな事にチャレンジ出来る和田さんは、教室でもみんなの憧れ、これからの作品も楽しみだ。



作品名：酒場（油彩）
作 者：村上明（中2）

小さい頃から絵を描くことが大好きで、いつでも新たな表現方法にチャレンジしている。この作品もコラージュを取り入れ工夫している。これからますます楽しみな生徒だ。



作品名：自画像（鉛筆デッサン）
作 者：土田友唯

受験勉強と実技に追われる日々の中、自画像で自身を見つめ描いた作品。デザインを志望しており、素晴らしい発想力とセンスが光る作品を次々制作している。これからは目が離せない！

■アトリエぱれっと 宇和島市伊吹町字イカリ石甲 1083-1 2F TEL.090-7784-4703 www.art-palette.com コメント：清家 由佳

ライブ情報

BJDAN feat.KIYOKA 笹井 BJ 克彦 (Bass), 吉川 DAN 弾 (Drums)

【筋なしの刻(とき)】打ち合わせなし、筋なしの即興演奏がコンセプト。ベースとドラムだけで、そのとき、その空間を楽しく操る2人ユニットの【BJDAN】はジャンルレスで自由な音を提供し続ける。その場のリアルな音のみを放出するグルービーかつ、スパークリングな演奏になること間違いなし。

[BJ]…リトグリ、加藤ミリヤ、CHEMISTRY 等のサポートでツアー中の、ベース笹井 BJ 克彦 (indigo jamunit) [DAN]…kinki kids、長江健次などサポートで活躍中のドラム吉川 弾 (Qui)

ドラムとベースの2人が即興で自由にいろんな形を音に表現する楽器パフォーマンスユニットBJDAN。そして今回もこのGroovy なリズム隊に松山のKIYOKAもvocalで参加していただきます!! 後半ではまた会場のみなさんと Funk session!



2月23日(土) 19:00 オープン 20:00 スタート

チケット / 前売り 2,500 円 当日 3,000 円

■R69K JACK 宇和島市中央町 2-4-8 TEL. 0895-28-6069

撮り歩きなんよ

アマチュアカメラマン北濱一男が撮りためた南予の風景



「丸山の梅林」

宇和島市内に綺麗な梅の花が咲く梅林があるのをご存じでしょうか？ その場所は丸山闘牛場裏の、すり鉢状になっている旧闘牛場跡です。ここの梅は南楽園の刈り込まれて丸くなっている梅の木と違い、自由に枝をのばし野性味にあふれ、どこにカメラを向けても一服の絵になる素晴らしい梅園です。そんな梅園も少し前までは雑木が成長し日当たりが悪く樹勢が衰え数本の梅が枯れていました。それを宇和島市が雑木の伐採をしていただいたので、ようやく日当たりが良くなり、今年はこれまで以上に綺麗な梅の花が咲くことでしょう。

「龍光院の河津桜」

丸山の梅が咲くと龍光院の河津桜も咲き始めます。龍光院は宇和島城から見て鬼門の方角にあたるので、宇和島藩の祈願所として建立されたそうです。河津桜は白くて大きな観音像がある所です。私は丸山の大カーブの小道を歩いて降りて行きます。

写真・文 / 北濱 一男



北濱 一男 アマチュアカメラマン

1945 年生まれ 宇和島市在住 学生時代からカメラをはじめるが、本格的な写真歴は約 20 年。現在は、奈良県明日香の写真家 上山 好庸氏に師事し毎月奈良へ通う。撮り歩きなんよ（ブログ）<http://uwatu.blog135.fc2.com/>